

福岡県 大木町の実践

学びたい「ゼロウェイスト(ごみゼロ)宣言」

生ごみ分別処理で年3000万円の節約 ＝福岡県大木町の取り組み＝

犬上3町、秦荘町、彦根市で構成する彦根愛知犬上広域行政組合が現在進めている「新ごみ処理施設整備計画」をめぐる、広域行政組合議会で議論が交わされています。日本共産党から、彦根市は角井議員、豊郷町は今村議員、愛荘町は滝議員、そして甲良町は西澤議員が参加しています。

従来の焼却方式では当局の発表でも建物・プラントだけで約320億円。用地買収や搬入道路新設などを含めると総額500億円に跳ね上がると言われる中、令和4年秋、彦根市の和田市長(組合管理者兼務)は「ごみ処理はトンネルコンポスト方式を検討」へと舵をきりました。そして、検討結果が10月に発表予定とされています。

去る8月21日開催された広域組合議会定例会で角井議員が、焼却一辺倒からの脱却で「地球温暖化防止に資する処理方式を」との角度から見解を述べました。角井議員の発言要旨と関連資料を紹介します。

これからの世代に持続可能な環境を残すのはわたしたちの責任です。ごみを削減して燃やさないで資源化する。このことが大切です、建設費や維持管理費も処理方式を決める大きな要素です。

福岡県大木町の取組み

はじめに述べた人口1万4千人

の福岡県大木町は、人口10万人未満の自治体のなかで、リサイクル率が60%以上と全国で6番目に高く、このことで毎年約3千万円の予算の削減をしています。その結果、町民のなかに「燃やすごみを減らすことは家計を助けること」となるという気運が生まれているときいています。このことはとても大きいことだと思います。

「生ごみもプラスチックも燃やす」でいいのか？！

視察した三豊市でも分別に力を入れているということでしたが、生ごみとプラスチックをいっしょにごみとして出すという回収方法は、ごみの削減面からみるとどうなのでしょう。大木町は、「燃やせば済む」からの脱却でしたが、「好気性発酵乾燥方式」は生ごみと汚れたプラスチックをいっしょにして「ごみとして出せば済む」になる可能性があるのではないのでしょうか。大木町のように生ごみは生ごみとして処理する方が、ごみを削減するという面でこれからの処理方式としてふさわしいと考えます。

※ ※ ※

以下は井出留美さん(食品ロスの専門家、環境問題などに取り組む)からのレポート(2022年7月)の一部

福岡県大木町のごみ処理

13年間でごみを60%減らし、これは毎年約3千万円の削減になる。「燃やせば済む」からの脱却。徳島県上勝町に続いて「ゼロウェイスト(ごみゼロ)宣言」を2008年に行っている。

水分を80%も含む生ごみ。これを

燃やすには膨大なエネルギーとコストがかかる。その上、いま喫緊に取り組まねばならない温室効果ガス排出削減にも反する。

- ★大木町 人口約1万4千人。約5千世帯
- ★リサイクル率 人口10万人未満では全国で6番目
- ★バイオマス処管理を含め全国からの視察 3000~4000人/年
- ★おおき循環センター「くるるん」 指定一般社団法人サステイナブルおおき
- ★生ごみ循環事業 家庭と学校の生ごみ バイオガスプラント 発酵→バイオガス
- ★有機液肥→農地→家庭、学校給食
- ★し尿、浄化槽汚泥→2002年まで海洋投棄していた
- ★環境課 2006年おおき循環センター設置
- ★3000万円/年の処理費用削減効果で実現した

西澤議員の話

環境・CO2削減からも、甲良町では「ごみ処理」関係に約1億円の予算をかけている財政面からもぜひとも学び、計画・実行に進むことが重要です。

甲良民報

2024年9月8日 926号
発行責任：日本共産党甲良町支部
連絡：甲良町在士373(西澤)
Tel: 38-4949 Fax: 38-2242

ご感想・ご相談をどうぞ。 ☆くらし・税金・教育などの相談は 西澤伸明 38-4949
©日本共産党の見解を紹介します。メール shigakoura.jcp@ares.eonet.ne.jp ホームページもごらんください【「西澤伸明」で検索】